

高品質アコヤ貝育成強化事業 Ⅲ 耐病貝試作品『浜島2号』の生産

林 政 博

目 的

これまでに得られた選抜手法の知見を基に耐病貝を試作して実用性を検討する。

方 法

平成14年度に生産した耐病貝試作品『浜島1号』に引き続き、同様の選抜を行って『浜島2号』を生産した。親貝は平成13年度に生産した浜島B（県内の民間種苗

生産業者が生産した国内産アコヤ3年貝で大量へい死したロットの生残貝と愛媛県水産試験場から譲渡された『松』の交配）と水産研究部の系統保存貝（29組、平均へい死率34.9%）の中から最もへい死率が低かった1組（10.8%）を低へい死家系貝として選び、この中から端先の再生によって一次選抜を行い、続いて閉殻筋のa*値と血リンパ液中の小型粒子数によって選抜した親貝を使用して稚貝を生産した。

表1 親貝の特性値

	♀由来	全湿重	柱/右殻	a*	小型 粒子数		♂由来	全湿重	柱/右殻	a*	小型 粒子数
No 1	浜島 B	60.2	14.7	4.2	100	×	低へい死	58.6	13.9	5.2	200
No 2	浜島 B	56.9	14.9	2.9	300	×	低へい死	63.2	14.1	3.8	300
No 3	浜島 B	-	-	-	-						
No 4	浜島 B	54.3	16.1	4.6	500	×	低へい死	65.3	15.6	3.4	1700
No 5	低へい死	63.6	15.0	1.8	300	×	浜島 B	82.8	11.3	2.2	100
No 6	低へい死	107.2	17.4	2.9	300						
No 7	低へい死	61.6	17.6	3.4	200						
No 8	低へい死	68.6	15.8	3.3	100						
No 9	低へい死	57.8	13.5	4.5	900	×	浜島 B	51.2	16.2	4.2	800
No10	低へい死	53.5	22.2	4.2	1000						

小型粒子数：2.01～20.4 ミクロン

No1,2,3,5,6,7,8=浜島2号

結果と考察

親貝は前年度と同様、a*値（表1）と小型粒子数（図1）を指標として選抜を試みたが、a*値の違いは小さかった。3月6日～3月14日の間に交配を行って稚貝を生産して試験区（No1・No2・No3・No5・No6・No7・No8）と対照区（No4・No9・No10）を設定した。平成15年11月時点の重量は15.4～18.7gで8～10月の間の累積へい死率は1.6～8.1%であった。

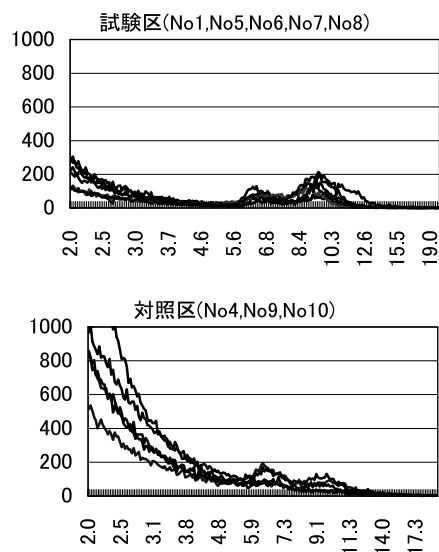


図1 試験区と対照区の血リンパ液の粒度分布